

○国語科の課題分析と具体的な授業改善計画（令和3年度授業改善プラン 入新井第一小学校）

*令和2年度の改善プランの検証

学習効果測定では、現4年生では、漢字を読むことの正答率は92%を超え、書くことも概ね目標値を超えている。国語辞典を活用しながら意味を理解させたり、ミニテストを頻繁に行って習熟を図ったりしたことが効果的であったと考えられる。現5年生では、漢字を読むことの正答率は84%を超えている一方、正しく書くことにおいて課題がある。改善プランの中のとめ・はね・はらいを意識した指導に、さらに習熟を図る手立てが必要であると考えられる。現6年生では、漢字を読むこと、書くこと共に概ね目標値を超えた他、相手の目的に応じて話の内容を捉えることや、自分の意見を明確にして書くこと、自分の意見を支える理由を明確にして書くことにおいて、定着が図られている。改善プランでの、朝の学習などで知識を再確認する時間を設定して繰り返し指導したことや、結論・理由・再度結論で押さえるといった話型の指導を行った上で活用させたことが、定着につながったと考えられる。全体として、文章を書くことにおいて、特に「段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くこと」「内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くこと」「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」という力を身に付けさせたい。

*令和3年度の改善プラン

観点	児童の実態（今回の調査における分析を含む）	明らかになった課題	具体的な授業改善案	
知識・技能	一年	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名など文字の学習に対して意欲的に取り組んでいる。習った平仮名を使って意欲的に文章を書こうとする様子が見られる一方、濁音、半濁音、拗音を正しく書けない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 濁音、半濁音、拗音を正しく書けない児童が多い。 『わ、は』『お・を』『え・へ』を文脈から読み取る力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> フラッシュカードなどを使い、濁音、半濁音、拗音学習を読む練習をしていく。 読書の時間を多く取ることで、様々な文章に触れさせ、文脈から正しい文字を考えられるよう指導していく。
	二年	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の言葉集めでは、発表しようと意欲的だが、習得すべき漢字の量が増えたので定着が難しい。 言葉では状況を伝えられても、文にすると様子が分らないことがある。 原稿用紙の使い方（文頭は一ます下げる、かぎかっこなど）の定着度合いに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字が定着していないため、既習漢字を普段の学習の中で用いることに難しさを感じている児童が多い。 順序だてて書くことに難しさを感じている。 文章中の拗音や促音、カタカナなどの正しい使い方の理解や定着が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ドリルを用いて繰り返し書いたり、タブレットを利用したりして練習し、漢字の定着を図る。 日記や、中程度の長さの作文において、順序立てた書き方をその都度指導する。 「」を使った会話文の書き方や、適切な句読点の打ち方、カタカナの使い方なども理解させていく。
	三年	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習には意欲的に取り組む児童が多い。しかし、新出漢字の数が多いため、定着しきれないまま進んでいる現状がある。 主語、述語をきちんと理解できていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習以外では、既習漢字を平仮名で書いてしまう児童や、「とめ、はね、はらい」を意識して文字を書くことが難しい児童がいる。 語彙が少ないため、別の言い方や書き方ができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の指導の徹底する。国語辞典も活用し、部首や熟語、使われ方、漢字や言葉の意味を理解させる。 書いた文章を音読して読み返したり、友達と読み合ったりする活動を通し、正しい使い方を理解する機会をもたせる。
	四年	<ul style="list-style-type: none"> 進んでタブレットを使用し、ローマ字入力を学んでいるが、苦手意識をもつ児童も多い。 説明的文章の学習は、新たな知識を得られることもあり、意欲的な姿が多く見られるが、文章構成などの理解が難しく感じている児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常使われる簡単な単語についてローマ字で表記されたものを読んだり、ローマ字で書いたりすることが苦手な児童がいる。 段落の役割について理解が難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> タイピング練習などを行い、楽しみながら身に付けられるようにする。教室掲示にローマ字表記を増やし、日常的に視覚に入るような工夫をする。 説明的文章の学習では、単元末に筆者の意見に対する簡単な意見文を書かせる。意見・理由・意見の3段落構成の文章とし、各段落の役割を意識させることで、読みに活かしていく。
	五年	<ul style="list-style-type: none"> 字を正しく丁寧に書くという意識が低く、漢字の定着に時間がかかる。文章を正しく書くことができない児童も多々いる。 タブレットに意欲的に取り組み、ローマ字入力がスムーズにできる児童が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢が悪いまま、字を書くために字形が整わなかったり、雑になったりする児童がいる。 語彙が少ないうえに、文章の正しい書き方が定着していないため、文章構成を考えて作文することが難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の指導の徹底をし、とめ・はね・はらいをより意識して書くように指導する。また、丁寧に書くという意識を定着させていく。 文章構成を意識した文章の読み取りを行ったり、言葉の意味を調べさせる活動を取り入れたりする。
	六年	<ul style="list-style-type: none"> 修飾語など、文構成への理解が弱く、正答率が低かった。 漢字では、読み取りに比べ書き取りの正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 主語、述語、修飾語、など文の構成の理解が不足している。 漢字の書き取りでは、特に同じ音の漢字の使い分けが難しかったようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学期に主語、述語、修飾語の復習授業を実施する。 漢字の書き取りは、学校だけでなく、家庭学習も充実させるために個別の課題を出す。また、同じ音の漢字を使い分ける活用の授業を実施する。
一年	<ul style="list-style-type: none"> 音読には意欲的に取り組み、ゆっくりと大きな声で読める児童が多くなってきた。しかし、物語文での登場人物の行動を想像することに難しさを感じている児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読をする力は身に付いてきているが、文章中の細かな内容を想像しながら読むことに難しい児童がいる。 また、説明する文章では、文章を読まず、写真や挿絵だけから内容を考えたりする児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音読をする時には、言葉のまとまりや場面の様子を考えながら読み方を工夫できるように指導をする。 文章を読んで内容の大体を捉えると同時に、自らの考えも表現できるように、ワークシートを工夫し、文字で書き表せるようにする。 	

国語

思考・判断・表現力等

二年	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の音読には意欲的に取り組む児童が多く見られる。また登場人物の台詞など、読み方を工夫することができる児童が多い。 ・文章を読んでいるが、登場人物の行動などを想像して読んでいるが、自分の思いが先行してしまい、叙述に基づいて読むことには課題がある。 ・説明文の読み取りでは、文章中の大切なところを概ね見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の読み取りで、場面の様子や登場人物の行動を想像しながら読んだり、発表したりすることに苦手意識をもつ児童が見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子教科書等を活用し、挿絵を提示するなどして、場面の様子を考えながらゆっくりと読んだり、相手を意識して読んだりすることを指導している。 ・物語文の学習では、登場人物の行動等が想像できるよう、吹き出し等に理由を書いたり、文章に線を引いたりして叙述に沿って読むことができるように指導の工夫をする。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・図書の時間の読み聞かせは集中して聞き、物語の世界を楽しむ児童が多い。教科書の学習でも、主人公の気持ちが表れている文章表現を探したり、そこから主人公の気持ちを捉えて発言したりする児童が多くいる。一方で、読解に苦手意識を感じ、テストなどでも正確に答えられない児童も少なからずいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長文を読むことに苦手意識を感じる児童が多い。最後までじっくり読むことができず、自分で想像して読み進めてしまうなど、叙述に即して読む力に課題がある。 ・説明文の文章や段落の要点に注意して読み取る力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の叙述を根拠とした読み取りができるように指導する。 ・「初め・中・終わり」や「主語・述語の関係」など、文の構成を意識できるような指導や取り組みをする。
四年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書くことが苦手な児童が多い。書いた文章も、因果関係がはっきりしないものが多い。対話をするとなんが言いたいのかこちらに伝わるが多いのだが、文章にして分かりやすく伝えることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意して文章構成を考えたりする力が不十分である。 ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表すことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書く際には、伝えたいことを一つに絞り、中心となる事柄を明らかにする指導を続ける。慣れるまでは短いのが、わかりやすい文章を多く書かせるようにする。 ・理由を示す言葉「なぜなら」「その理由は」を例示し、対話や発表の中で使用させ、書くことにも活かせるようにする。
五年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語を読み、叙述にそって考えていくことにとっても意欲的に取り組んでいる。しかし、叙述から想像して考えを深めることは難しい。 ・問題文の意味を理解することができず、課題に取り組みない、問題に正解することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長文を読むことができず、集中力が切れてしまう児童が多い。 ・説明文では、文章の組み立てを理解することができない児童がいる。 ・問題や課題の意味がわからず、活動自体に取り組むことができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、共感しながら読み、考えを深めるようにしていく。説明文では、話題を明確にし、話の流れをつかませる。 ・やることを箇条書きでわかりやすく提示す。 ・タブレットを活用した課題に取り組みさせる。
六年	<ul style="list-style-type: none"> ・出題形式が変わると読み取れないことが多くの児童で起こり、正答率が低かった。 ・物語文に比べ、説明文の正答率が低く、とりわけ、段落同士の関係を読む問題の正答率が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な出題形式に順応していく必要がある。 ・内容のまとまりを意識して読む経験が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットも活用しながら多彩な問題形式のものを日ごろから解かせ、柔軟な発想ができるようにする。 ・説明文の学習の際に、毎回、文章全体を内容のまとまりごとに分ける学習を行う。
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・平仮名の学習では一文字一文字が基準や止め、はね、はらいを意欲的に学習していた。 ・作文の学習で、自らが体験したことを書く他に、感想など自分の考えもかこうとする児童が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読をすることに対して楽しさを感じながら読む様子が高まっているが、声量や速さ等、まわりの人に聞き取りやすい読み方を継続して指導する必要がある。 ・書くことは個人差に応じて、適切に対応していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音読・スピーチ・発表をする機会等、児童が自分の意見や考えを自ら発表できる場面を多く設定する。 ・書くことに対して苦手意識がある児童に対して、個別に声掛けや指導を行い、自信をもてるようにする。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・物語文の学習で、登場人物の心情を問う発問で手を挙げて発表しようとする児童が増えた。 ・文章を読んで自らが考えた感想や意見、日々の日記等で原稿用紙に文章を書くことに苦手意識をもつ児童が見られる。 ・読書の時間は静かに集中して本を読むことができるが、内容を理解して読んでいない場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挙手をし自分の考えを述べる児童に偏りがある。 ・ノートやプリントの吹き出し等に自分の思いを書くことができて、原稿用紙に書くとなると、時間がかかる児童見られる。 ・黒板を見てノートを書くことに時間を要する児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が答えられる発問を意図的に組み込み、皆が参加できるようにする。 ・タブレットを活用しメモを書き溜めていくことで、短い文章を組み合わせながら原稿用紙に書き写せるようにする。 ・個別の指導や支援を行い、一斉指導を行いながらも個々の児童の実態に合った指導をしていく。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・作文に苦手意識がある児童が多い。 ・本や絵本の読み聞かせは集中して聞くことができるが、読書への興味は個人差があり、学年相応の本を選んで読むことはまだ難しい児童もいる。 ・音読に進んで取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを文章に書いて表現することに苦手意識をもっている児童が多い。 ・漢字の習得が苦手な児童が多い。新出漢字が増えて定着していないこともあり、習った漢字を日常生活で使おうとしない児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読み聞かせ等を通して文章量の多い本にも関心をもたせるようにする。 ・日記に継続的に取り組むなど、自分の考えを文章で表現することを日常化させる。 ・漢字の学習への取り組みを毎日確認し、新出漢字の定着を図るようにする。
四年	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的多くの児童が意欲的に読書に親しんでいる。しかし、ジャンルが偏っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週1時間の図書の時間が児童の読書量の確保に役立っている。ただし、文学的文章を好む児童が多いせいか、説明的文章の学習での意欲の持続が難しい。また、読書量の割には、意見文等自分の考えを説明するような文章を書く力が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書と図書の本を活用して、ジャンルを広げる。国語科「本は友達」のように、本を読む活動と読んだ後に書く活動をセットにして取り組む。紹介文、ポップ、パンフレットづくり、感想文など、書く活動の工夫をする。

主体的に学習に取り組む態度

五年	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、読書活動(ブックトーク)を積極的に取り組んでいたこともあり、物語文を読むことが好きな児童は多い。 ・書く、という作業を苦手とする児童が多く、自身で考える俳句や作文などの課題は取り掛かるのに時間がかかる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きをすることができない。日頃のドリルでは定着が図れない。 ・どんな課題でも、具体的な見本がないと取り組むことができない場合が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に漢字テストをして、覚えるという意識を付ける。間違えた漢字は練習し、定着を図る。 ・言葉だけの指示ではなく、板書して視覚的にも指示が理解できるようにする。 ・「書く」ための考えるポイントが分かるような見本を示し、書くことに慣れさせる。
六年	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の幅が狭く、多様な分野の読書になっていない。文章量の多い本は読みたがらない児童が多い。 ・文章を書く際には、推敲などの作業がすすんでできない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の習慣を身に付けさせ、いろいろな文章に触れたり、語彙力を高めたりさせていく必要がある。 ・書いたら見直しをする習慣が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックトークなど、本が好きになる活動を2学期に実施する。 ・読書感想文の指導などでは、必ず、推敲させ、書き直しをする活動を行う。

